

(工事名)

宮古港海岸藤の川地区防潮堤工事

建設汚泥再生利用計画書(自ら利用)	
会社名	藤澤沼組・岩井建設㈱特定共同企業体
所在地	岩手県宮古市磯鶏1-5-1
部課係名	—
担当者	担当者名 現場代理人 笹田 拓司
連絡先	電話番号 0193-77-5527
工事件名	宮古港海岸藤ヶ崎地区防潮堤その2工事
工事場所	宮古市磯ヶ崎地内
工事概要	防潮堤施工延長 L=470m 本土工(鋼管杭)φ800 317本 本土工(躯体ケーシング)φ700付 150個 縦壁ブロック露付 322個
発注者	岩手県
発生予定量	6,000㎡
発生予定時期	平成 29年 9月 ~平成 29年 12月
工事件名	宮古港海岸藤の川地区防潮堤
工事場所	宮古市藤の川地内
工事概要	防潮堤施工延長 L=383.4m 本土工(場所打ちコンクリート) V=9.157㎡
発注者	岩手県
利用予定量	6,000㎡
利用予定時期	平成 29年 9月 ~平成 29年 12月
利用用途	防潮堤背面の盛土材
中間処理の場所・方法	場所:宮古市高浜漁港内 処理方法:泥土粒状固化処理
再生品の品質	第二種改良土
収集運搬の委託先	有限会社 宮崎興業 許可番号:岩手県 00300077743

現場にはこのように再生利用計画書があり、
しっかり管理とされています。

岩手県



訪問日：2017年10月11日（水）

にしかわの

現場レポート
—in宮古—

資源循環型社会を創造。



一般社団法人 泥土リサイクル協会

<http://www.deido-recycling.jp>

〒492-8266 愛知県稲沢市横地町12
TEL:0587-23-2713 FAX:0587-23-2734

今回は、東日本大震災で被災した岩手県宮古市の防潮堤築造工事作業現場の見学に行ってきました。
震災から6年経ちますが、こういった海岸沿いではまだまだ津波対策工事が行われており、当時の被害の大きさがよく分かります。



Step 1

汚泥が運ばれる



別の現場から出る排泥が防潮堤の盛土材として利用するためにこの改良現場へ運ばれてくる。

Step 2

貯泥



排泥は自硬性汚泥のため、運ばれてすぐは写真左のような性状にあり、そのままにしておくと約1日で固まってしまうため、バックホウで調泥を行う。

Step 3
改良プラントへ



一旦貯留ピットに貯め、調泥処理が行われた後、バックホウで改良プラントに投入される。



Step 4
粒状固化処理



写真左のように、専門の技師が機械や固化材・高分子凝集剤の添加量など、日々の管理をしながら、処理を行う。

Step 5
仮置き場へ



改良された土は普通ダンプトラックで場内の仮置き場へ運ばれる。

Step 6
第2種処理土



←改良された土は、要求品質の第2種処理土（コーン指数800kN/m²）以上の状態を確保。

その他



改良現場全体の写真



当日はあいにく雨でしたが、現場から見える景色はとてもきれいでした。

東日本大震災から6年が経ち、ほぼ復旧工事も終わり忘れがちになっている現在ですが、このような現場にお邪魔すると、改めて津波の被害が大きかったことが分かります。

地震によって起こる津波の大きさは予測が出来ませんが、こういった対策は必要だと思います。

今回現場見学を快諾していただいた浅沼組の笹田所長、シンコーの小笠原様、お忙しい中ありがとうございました。

西川

